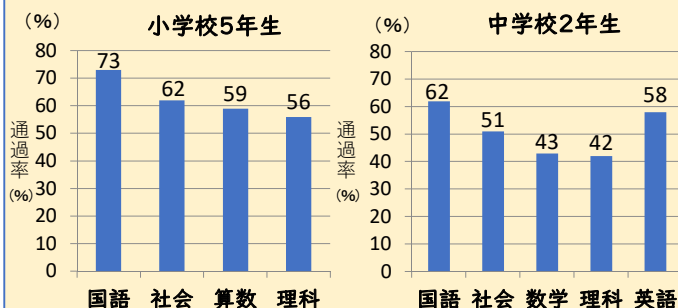
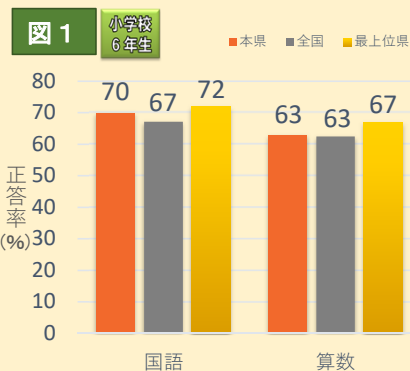


令和4年度県学習状況調査から

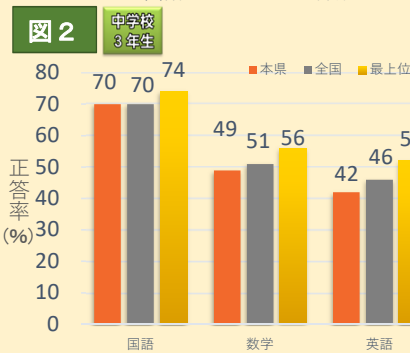


教科によって差はあるものの、全体を平均としてみると、小学校ではおよそ6割、中学校ではおよそ5割を上回る通過率でした。このことを踏まえ、各校では、各教科の自校分析を基に、実施報告書を活用しながら指導の改善に取り組むこととしていました。

今回調査の状況と対策(教科に関する調査)



本県の平均正答率を全国や最上位県と比較すると、小学校においては、全ての教科で平均正答率が全国平均を上回っており、中学校においては、国語が全国平均を上回っている一方で、数学と英語は全国平均を下回っております。

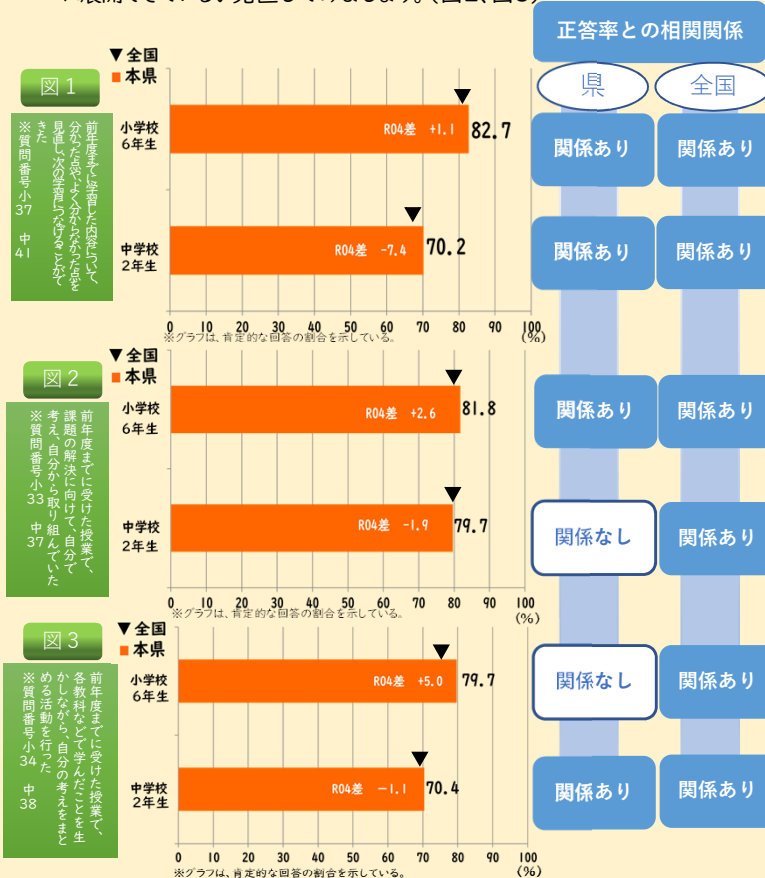


今後は、児童・生徒質問紙調査と学校質問紙調査の結果を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組を一層推進することで、資質・能力の育成に努めることが必要です。

授業への取組状況(児童・生徒質問紙調査)

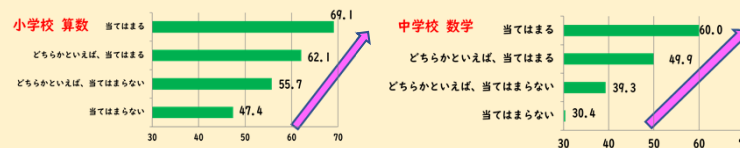
下の図1～3の児童生徒質問紙への回答と、正答率との相関関係の分析から、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善として次の①、②が求められます。

- ①小・中学校において、学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を確認し、次の学習につなげましょう。(図1)
- ②小学校では、各教科で学んだことを生かしながらまとめる活動、中学校では、課題の解決に向けて自分で考え、自ら取り組む活動が効果的に展開できているか見直してみましょう。(図2、図3)



「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」(図1)への本県の回答と平均正答率(%)

「当てはまる」と答えた児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」と答えた児童生徒よりも10ポイント以上高い状況です。



今後の指導の改善のために

青森県教育委員会では、県内の各学校の参考となるよう県の結果と今後の対策について報告書を作成しております。報告書は右のQRコードからご覧頂くことができます。



国立教育政策研究所では、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示しています。

○掲載授業アイデアの一例

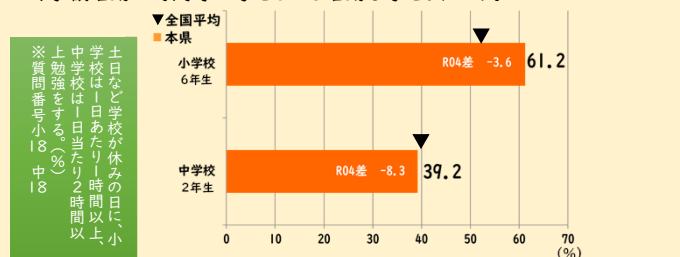
- 小学校 国語
- ①米作りについて解説する文章を書く
- 小学校 算数
- ③日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること(分配法則)
- 中学校 国語
- ②説明的な文章を読む(本の読み方)
- 中学校 数学
- ⑧日常的な事象の数学化と問題解決の方法(駆伝)
- 中学校 英語 話すこと
- ②説明を聞いて、考えとその理由を話す

本県の各教科で課題が見られた設問についての授業アイデア例も掲載しています。下のQRコードからご覧頂くことができます。



学習習慣の状況(児童・生徒質問紙調査)

本県の児童生徒は令和4年度に比べ、土日など学校が休みの日に家で2時間以上勉強をする割合が下がっています。この結果から、土日など学校が休みの日にどのように家庭学習の時間を確保するかなど、時間の使い方について、学級活動の時間等に考えさせる活動も考えられます。



「土日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強をしますか」への本県の回答と平均正答率(%)

「土日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強をしている」と答えた児童生徒の平均正答率は、小学校では、特に1時間以上、3時間より少ないと回答した児童が高くなっています。また、中学校では、勉強時間が増えるほど、正答率は高くなっています。なお、本県では質問への回答と正答率との相関関係はありませんでした。

